

1. 環境学習コーディネート実施概要 (Web 掲載)

| | | | | | | | |
|------|--|------|---|-----|------|------|-------------|
| 依頼No | 5 | 事例No | 1 | 依頼者 | 王 愛里 | 実施場所 | 刈谷市立小垣江東小学校 |
| 実施対象 | 刈谷市立小垣江東小学校 (6年生) | | | | | | |
| 実施日時 | 令和2年9月7日(月) 14時~14時45分、15時~15時45分(2クラス別々に実施) | | | | | | |
| テーマ | 生物多様性の重要性を理解し、生物多様性保全活動に将来参加する若者を育てる。 | | | | | | |

●依頼内容

生物多様性ユースアンバサダーとして、生物多様性の授業を行う訪問先の中学校を紹介してほしい。

●講師：王 愛里 (生物多様性ユースアンバサダー 名古屋大学学生) 及び実践場所

王氏は、名古屋大学理学部(生命理学)の2年生であり、「国際自然保護連合日本委員会(IUCN-J)」が任命し、ユース団体「Change Our Next Decade(COND)」が運営を行う「生物多様性ユースアンバサダー」の中部チームの一員として2020年の1年間活動していた。今回はその活動の一環として、生物多様性に関する授業を中学校で行いたいとの依頼があり、調整の結果、刈谷市立小垣江東小学校で授業を実施することとなった。

●授業の内容

| | | |
|----|---|-----|
| 座学 | <p>講師は自己紹介の後、今日の授業では間違ってもいいからどんどん発言してほしいと児童に呼びかけた。授業は、生物多様性などの説明が穴あき状態で書かれたプリントを使って進められた。小垣江東小学校では、ホタルの飼育が行われていることからホタルを例に取り上げ、写真を示したりクイズを出したりしながら、生物の多様性には「環境のいろいろ」、「種類のいろいろ」、「遺伝子のいろいろ」があるという説明が行われた。その上で、ホタルが生きていくためには、幼虫のエサとなるカワニナだけではなく、きれいな水や土、コケなども必要であること、一方、もしホタルがいなくなったら、ホタルを食べるヤゴがいなくなってしまうことなど、生きものは互いにつながっているという説明がされた。さらに、ホタルなどの生き物を守るためには、きれいな川が必要であり、きれいな川は森によってつくられるという説明がされた。そして、名古屋市では森が減っているだけでなく、森をきれいにするボランティアの数も減っているという問題があることが示された。最後に、児童それぞれが生物多様性について今日学んだことを自分なりにまとめ、自分たちに何ができるかを隣同士で話し合い発表してもらおうとともに、講師が配布したアンケートに答え、授業を終えた。</p> | 45分 |
|----|---|-----|

●授業の様子

授業は、講師から配られたプリントにもとづいて行われ、ホタルやその幼虫のエサとなるカワニナの写真を見たり、3種類のホタルの名前を当てるクイズに答えたりしながら、なごやかに進められました。子どもたちは、講師からの問いかけに積極的に手を挙げて答えていました。これに対して、講師は児童ひとりひとりの発言を前向きに受け止め、授業への積極的な参加を促していました。最後に、子どもたちは、生き物を守るために自分たちに何ができるかについて、隣同士で意見交換をし、発表してもらいました。子どもたちは授業に熱心に取り組んでいました。

写真を見ながらクイズに挑戦しました。



生物多様性についてみんなで考えました。

